

高井神島
イルミネーション
事業報告

港を照らす希望の灯

高井神島いまむかし

高井神島は、魚島と同じく瀬戸内海・燧灘のほぼ中央に位置し、産業は漁業と自家消費用の野菜栽培ぐらいです。

平成16年10月、近隣の4町村が合併し上島町になるまでは、魚島・高井神島で魚島村を形成していました。美しい自然、美味しい魚、温かい人情に包まれた島で、瀬戸内海の秘境と言われていました。

しかし、合併当時58人だった島の人口は、現在34人まで減少し、高齢化率も70.59%となりました。

高井神島の元気づくり

このため住民らが発案して、民家の壁いっぱい到大漁旗を描いて島の元気を伝えたり、島外の高井神島ファンの会社経営者の応援でイベントを開催するなど、自分たちの手で島に活気を取り戻そうと頑張ってきました。

地方では過疎が進行する反面、先ごろ政府が実施した調査では、東京在住者の50代男性の51%、女性の34%が地方移住に関心を持っているそうです。しかし、

地方では、自らの良さをアピールする「すべ」がなかなかありません。

昨年、隣の魚島で「元気な島づくり実行委員会」が、初めて島にイルミネーションを点灯させ成功を納めたことに倣い、その喜びを高井神島の人々にも味わって貰おうと提案しました。

高井神初のイルミネーション

実行委員会のメンバー等で、港の常夜灯に計8千個の電飾を飾り付けました。費用はえひめ地域政策研究センターからの助成です。提案者の一人でもある事務局の女性は、広島県尾道市まで材料を買い出しに行くなど準備に大わらわでした。

点灯式は、平成27年12月13日午後2時半から高井神港の大漁祈願の灯籠を中心に開催し、住民ら20人余りの大きな拍手で点灯され、ケーキとコーヒード交流を深めました。



盛り上がる交流会

自治会長さんは「人口減少にめげず元気な島にしたいと願っているのので有難い」と喜び、実行委員会副会長の穴蔵千

元気な島づくり
実行委員会長

佐伯 真登



代美さん、清水則子さんら関係者も「準備に気を遣ったが、皆さんの協力のおかげで点灯式ができた」とホッと一息の感

じでした。



イルミネーション点灯!

イルミネーションは、毎日午後5時から9時まで点灯され、年末年始にかけては島内外から噂を聞きつけた大勢の来客で好評を博しました。

終りに

年明けの、平成28年1月15日に撤去作業を行いました。島民からは「来年はもっと盛大に、もっと長い期間点灯して欲しい」と要望されました。

高井神の港を彩ったイルミネーションは、人々に島の良さと元気を知ってもらい、帰省者には安心を、島の住民には喜びと希望を与えてくれました。

この事業は、若い人の斬新な発想や行動力で推進して大成功をおさめたものです。あらためて、後継者が育つことが島づくりの鍵であり、最大の喜びであることを痛感しています。

津島音頭復活
事業報告

津島町誕生60年記念 復活「津島音頭」を踊ろう
〜津島よいとこ ほんとだすらい〜

岩松町並み保存会
会長

兵頭 肇



「津島音頭」のはじまり

宇和島市の南側、岩松川と豊かな自然が自慢の「津島町」（現在は市町村合併により宇和島市の一部となる）が誕生して60年を迎えました。

現在、津島町の人口は10,886人ですが、60年前は人口25,920人、高度成長期の好景気に沸き、宇和島圏域のなかでも、ことさら元気で賑やかな地域でした。

その繁栄を担った商人たちは、津島6カ郷がこれから共に発展していくことを祈念し、それぞれの郷の特色を歌詞に折り込んだ「津島音頭」を自らの手で制作しました。往時の商人たちが、いかに前向きで勢いを持っていたのか伺い知ることができます。

元祖「津島音頭」復活へ

現在、夏祭りで踊られている「津島音頭」は、昭和60年代に行政主導で制作された新「津島音頭」です。元祖「津島音頭」はいつのまにか踊られなくなり、元々の音源も踊りも忘れられていました。

だったら、この機会に復活・リニューアルしよう！と、町の有志と岩松町並み保存会が立ち上がりました。

お披露目を11月の町文化祭と定め、各公民館や文化協会を中心に踊り手を募集したところ、下は4歳、上は90歳の町民の皆さんが、講習会に参加してくださいました。

振付は、昭和30年当時、原曲の振付けを手掛け、津島町のいろいろな場所です踊りの指南に駆け回っていた藤間藤治郎先生（西予市）にお引き受けいただきました。

「津島音頭」を踊る

踊りは、より洗練された形になりましたが、これがシンプルなようにで形やタイミングが難しく、計5回のお稽古は、老いも若きも四苦八苦。でも笑顔があふれたものとなりました。

津島町文化祭のオープニングでは、200名の観客の前で、32名が踊りを披露しました。ご観覧いただいた皆様から「当時を思い出した」「あの頃は本当に賑やかだった」「懐かしくて涙が出た」など、様々な感想をいただきました。

これからの津島

また、このお披露目の動画を含む「踊り方DVD」を制作し、各地区の公民館や学校へお配りしたところ、地域行事の中で踊っていたり、たいへん嬉しく思っています。

津島町が誕生して60年、人間であれば還暦を迎えた節目において、耳に入るのは少子高齢化に人口流出と不景気な話ばかりで町の未来を憂うこともあります。しかし、6カ郷の特色を盛り込んだ「津島音頭」の歌詞のように、これからも地域のつながりと誇りを大切に、地域みんなが元気になる活動を続けていきたいと思っています。



だいぶ揃ってきました



いざ本番!